

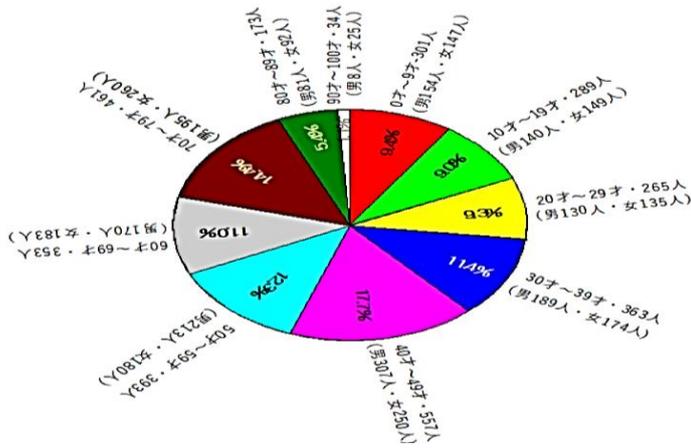
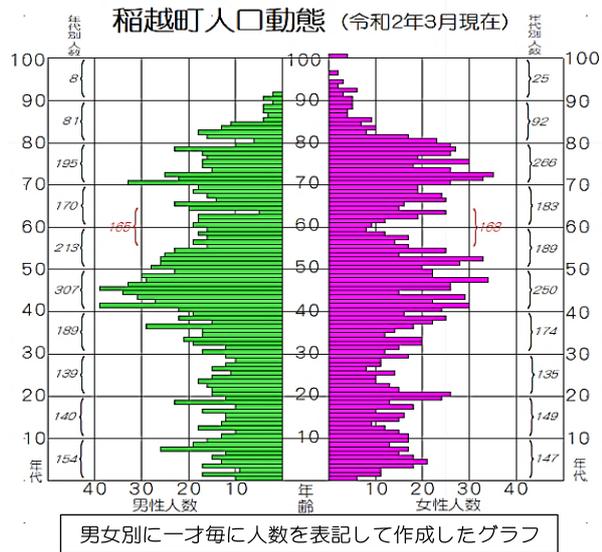
# 稲越人口動態から見る自治会運営の問題点！

\*人口動態； 稲越町の令和 2 年 3 月現在の人口分布は右記グラフの様に非常に複雑な形態を成し今後の変化が読みづらい。

\*自治会役員； 本部理事 22 名【(相談役・監事含む)  
(70 才以上 11 名・60 代 8 名・60 才以下 3 名)】  
地区理事 14 名 (出席者 7 割女性)

\*自治会運営の今； 現在は高齢者ながら、まだソフト面・ハード面も何とかこなしているが今後ソフト面は何とかできるとおもうがハード面は無理になってくる。またそれを支える組織も確立していないので今後の課題の一つである。  
※この様な事は他の地域でも話を聞くことがある。

\*今後の運営問題； 本部理事の 70 才代の半数は継続困難の意志を示しておられる。また、資料作成にはパソコンで行うため、ある程度のパソコンを扱える方が必要になり現在でもパソコン扱い者に書類作成が偏り負担増になっている現状である。



今後は各部署で独自に書類作成が出来るようになれば最適ではあるがなかなか難しい課題ではある。また、新規理事の勧誘もしてはいるのですが手がなく苦慮している。本部理事もそうであるが地区理事も高齢化に伴い引き受けを拒否される方が出始めた地区もある。この様な現状では根本的に自治会の在り方を考える時期が来ている。稲越町はまだそこまでには至っていないが先のことは不透明である。

役所でも自治会加入率を上げるための勧奨ポスターや市広報紙に勧誘記事の掲載で呼びかけてはいるが効果のほどは分からない。

稲越町にも、20~30 年前は、まだ週休二日制が十分確立していない時代でも、子ども会や子供たちのクラブの世話、また自治会運営に 40~50 才代の方々が多く活躍されていました。現在はその風景がみられなくなった。

昨今の様に突然いつ起こるかわからない災害に備えて置く基本は第一に自治活動の原点である人の組織を確立することが大変重要だと思います。心身共に気力ある中堅の方々の力が必要だと思います。その組織を確立す為若き力を犯し下さい。宜しくお願い致します。

いなごし

第 432 号

稲越自治会

広報部

部長 一之瀬幸雄

副部長 中野

今年の稲越納涼盆踊り大会 中止とします。

## 環境衛生部部たより

# 熱中症 X 食中毒

再確認つもりとはずは事故のもと

ストップが食中毒

意識がない、震えがある、水分がとれないときはすぐに受診を。

涼しい場所で休む

氷水を与える

めれタピルなどで合やす

今年は新型コロナウイルスの再度感染が広まってきている時期に熱中症と食中毒に注意する季節が到来。新型コロナウイルスの感染の注意の為、暑い日中でもマスクを着けなくならないため余計に熱中症にかかる状態が起こります。また、夏は汗を大量に掻くため自覚しないまま体力を消耗していますので食中毒にかかりやすくなっていますので注意を払って生活して下さい。

## 防火防災部たより

担当：八木沼三治・辻村秀雄

# 防災力は想像力

大地震に備える ①

いま大地震が起きたら？ シーン別トレーニングで防災力アップ

1 状況を設定する 2 何が起こるか想像する 3 どう行動するか想像する

例えは... 照明に強い揺れ 例えは... ほとんど動かない可能性

気づきが安全への第一歩

寝室をチェック

窓ガラス！割れるかも

ガラスの額や壁かけ時計！飛んでくるかも

カラーボックス周辺の小物！飛んでくるかも

照明器具！落ちるかも

背の高いたんす！倒れてくるかも

危険を取り除くやり方はいろいろ自分のペースで着実に

すぐできる対策

買い替え、買い足し

計画を練ってから

つり下げ型照明をじかけ型に替える

枕の位置を変える

背の高い家具を他の部屋に移すなど模様替え

動かせない家具などは転倒防止策を施す

寝転がって、部屋を見張ってみる

高梨輝美さんへの取材から グラフィック・エリ